

PPP（汚染者支払い原則）と費用負担

文責 青柳 美香

1 PPP(Polluter Pays Principle)とは何か

誤解された原則

本来の PPP・・・1972 年 OECD によって提示普及した原則

原則 : 事前的に外部費用を価格体系に取り込み内部化するための原則
環境要素を含めた意味での資源配分の効率性を追求している。

2 つ目の『P』:「Pays」は支払いであり負担ではない。

= 公害防止費用を支払う企業が、その費用を消費者に転嫁することを認めている。

拡大解釈、誤解された PPP・・・「公害補償に関わる PPP」

原則 : 事後的に人々の健康被害をから償うための原則

二つ目の『P』:「Pays」が負担と誤解されている。

= 事後的なので加害者・被害者が存在し、倫理的に加害者の企業が収益から被害額を負担すべきだと考えられたため。

ピグー税との関係

ピグー税と本来の PPP との目的の共通点

外部不経済の内部化・人為的な費用体系の補正

・・・ピグーはその目的を達成する手段として課税という方法を用いることを提言している。それがピグー税である。

・・・ピグー税は課税により発生源に外部費用の存在を知らせる役目を果たす。ゆえに事後的なペナルティーではなく、PPP 同様、事前に外部費用を費用に計上させ費用体系を補正する。

人為的な価格体系の補正

また支払い義務は PPP もピグー税もほとんどの場合汚染企業全てにかかるため価格体系も補正する。



結果

社会的費用と私的費用の乖離分を当該企業がピグー税・本来の PPP により支払えば、**企業の生産物の量は社会的に最適な量と一致する。**

2 市場原理と費用負担

誰がどれほど支払うかは法律によって決めることができるが、最終的に誰が負担する
のかを決めるのは市場である。

では誰が負担するのか！？  市場が競争的であると仮定し、部分均衡分析をおこなう。

費用の補正が価格の補正を意味するならば、費用は価格に上乘せされることになる。

どの程度費用が消費者に転嫁されるかは需要と供給の弾力性によって決まる。

y は需要量、x は価格とすると・・・

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{供給の弾力性} \cdots \frac{\Delta y / y}{\Delta x / x} \\ \text{需要の弾力性} \cdots - \frac{\Delta y / y}{\Delta x / x} \end{array} \right.$$

弾力性が負担割合に及ぼす影響

需要が弾力的 (需要弾力性が大きい)・供給が非弾力的 企業負担が大きくなる。

需要が非弾力的 (需要弾力性が小さい)・供給が弾力的 消費者負担が大きくなる。

3、応分の負担とは

文責 西岡 直保

「バズ」とは...モノの取り引きにおいて供給量が需要量を上回り、余った部分を費用をかけて処理しなければならないような財、資源。

この章のテーマ...バズの適正処理・再資源化の問題。

OECD で提示された PPP の意味とは違う！

なぜなら、バズの適正処理・リサイクルのための費用は、既に税金や料金によってまかなわれているはずであり、本来の OECD で提示された PPP 原則とも性質が異なるし、適正処理・リサイクルのための費用をピグー税によって内部化するという性質とも異なる。しかし、OECD のレポートでさえ、バズの処理に関する部分も解釈にいれようとしている。

つまり...

- 1、外部不経済を内部化する事前の費用補正原則
- 2、公害補償などの事後的措置の原則
- 3、バズの適正処理・再資源化の費用支払原理

適正処理・再資源化の料金（3）は、費用を事前に補正する（1）ための手段ではない。ここですでに同じ言葉の中で食い違いが出ている。

これは「原理」ではない。

これまで述べてきた PPP にかかる費用の他に、バズの適正処理・再資源化のためのシステム構築、運営に関わる費用も必要である。

動脈

開発設計における考慮

ネットワーク

情報の伝達

静脈

システム作りの必要性

「企業のイニシアティブ」の重要性

だが責任をとる主体（イニシアティブをとる企業）と費用支払いは全く別問題。

責任...「EPR」を原理としてグッズの生産者、または消費者に責任を求める。

費用負担...バツズの適正処理、再資源化システムを立ち上げたら、そのシステム内で機能する市場を経由して決定される。

「応分の負担」とは、責任の分担と費用の分担の2つが含まれる。OECDのEPRの議論ではこの2つが混同している。つまり、EPRは責任を負うべき企業がバツズの廃棄までの費用を支払うことと理解されてしまっている。

4、市場を活用することの本当の意味

企業の「自主的取り組み」でいいのか？

明確な責任分担と費用支払いのルールのもとでの**市場**の活用

企業...市場を活用して具体的な目標を設定した上でバツズの処理を行った方がこのましい。
(例)家電リサイクル法

消費者...生産者がいったんバツズの適正処理・再資源化費用を内部化してしまえば、後は市場の機能に任せてしまえばよい。つまり、消費者が自分の意志で自由に社会的に望ましい商品を選択して購入できる。

問題点 消費者の社会的公平性の問題。

病気や障害を持つ人で所得の小さい人がいるとする。

値段は安いが重いリターナブルびん

値段は高いが軽いペットボトル

健全な人間なら、、のどちらからでも選べるが、病気や障害を持つ人にとってはリターナブルびんを選ぶ事は想像を絶する苦痛をもたらす。しかし所得が低いがゆえにを買うことを断念せざるを得なくなるかもしれない。

追加的な費用支払いがこうした人々にしわ寄せされることは望ましくない！